

令和５年度 第３回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議 摘録

１．日時：令和５年９月２７日（水）１３時００分～１４時４０分

２．開催場所：麻生区役所 第１会議室

３．出席者

（１） 委員

吉松委員長、村井委員、岡倉委員、高橋（慶）委員、岡部委員、森副委員長、吉垣委員、小山委員、河村委員、佐野委員、依田委員、高橋（由）委員

欠席 伴委員、増田委員

（２） 事務局

須藤事務局長、門馬地域支援課長、宮川高齢・障害課長、加藤保護課長、佐々木衛生課長補佐、高橋保育所等・地域連携担当課長、永石危機管理担当課長、田島企画課長、齊藤生涯学習支援課長、藤原地域ケア推進課長、船山地域ケア推進課係長、麻生地域ケア推進課主任、長瀬地域ケア推進課主任

欠席 大塚地域みまもり支援センター副所長、野口児童家庭課長

４．次第

１ 開会

２ 議事

（１）第７期麻生区地域福祉計画の策定について

① 第７期麻生区地域福祉計画（案）について

② 今後の地域福祉計画策定スケジュールについて

（２）その他

・公募委員の募集について

・今年度の会議スケジュールについて

３ 閉会

【配布資料】

委員名簿

座席表

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱

資料１ 第７期麻生区地域福祉計画（案）

資料２ 今後の地域福祉計画策定スケジュールについて

５．公開・非公開の別 公開

６．傍聴者 ０名

7. 議事摘録

1 開会

2 議事

(1) 第7期麻生区地域福祉計画の策定について

① 第7期麻生区地域福祉計画（案）について

資料1を基に事務局より説明後、委員から意見聴取を実施。

高橋(由)委員 計画案について、構成や見やすさに着目した計画になっていると思う。麻生区社会福祉協議会（以下、「区社協」とする。）で策定している地域福祉活動計画については、川崎市社会福祉協議会と各区社会福祉協議会の合併を踏まえ、統合された地域福祉活動計画となるが、区社協としては、区域の計画理念や重点的事業について引き続き協働して進めていくということも記載いただいている。地域ケア圏域を基とした地域福祉を推進していく中で、区社協も共に推進していく機会をいただきながら、計画の推進に関わっていきたいと考えている。

森副委員長 取組39「地域情報交換会」について、計画通り進めたいと思う。民生委員の基本的な活動のスタンスは「気付く」「つなぐ」「見守る」「寄り添う」であるが、つなぐ以前に、訪問活動が困難であるという意見が、新任や2期目の委員さんたちから出ている。また、個人情報の過度な捉えられ方で訪問を拒否されることもある他、オートロックのマンションが増加しており、自由に出入りできないため（住民と）連絡が取りにくいという話も出ている。また、民生委員がどこまで関わるのか判断ができないような事例もある。他にも、行政から適切に個人情報が提供されないので情報共有が難しいという声や、様々な福祉制度を理解することが大変だという声が、民生委員児童委員協議会（以下、「民児協」とする。）の定例会などであがっている。会長会でも共通課題として話し合う他、地域の情報交換会でも、民生委員が活動しやすい状況を作って行けたらいいかと思う。

岡部委員 前回意見を述べたところを適切に反映していただいたと思う。基本方針2「相談支援に対する専門性の向上と関係機関との連携強化」の取組21の中に、麻生市民交流館やまゆり（以下、「やまゆり」とする。）も入れたらよかったと思うが、専門性という点でやまゆりは相応しくないかとも思うので、形としてはこれでいいかと思う。今後やまゆりも専門性を高めるように努力していきたいと思う。

高橋(慶)委員 6ページの「地域福祉の担い手と役割」における町会・自治会の役割について、区社協や民生委員児童委員等々の支えをいただきながら町会も活動を進めており、認知症発見の第一歩は地域から始まっている。そういう意味で町会・自治会は、地域の支え合いにおいて「重要な役割が期待されている」のではなく、もう「関わっている」ので、もう少し深く地域というものを見つめてもらいたい。東第二地区の地域情報交換会にも出席したが、多くの団体が集まると、意見を述べる時間も短くなり、本意があまり伝わらないということもあり、もう少し小さい単位の方が、地域の状況がよくわかるのではないかと思う。

計画について異議はない。ただ、町会・自治会の役割というのは、地域の中でどな

たが亡くなられたときにお見送りするとか、お香典をお持ちしたり、敬老の日はお祝いをお届けして、お会いしたらいろいろお話をするという訪問もしている。もう少し活動を見ていただけたらいいのかなとも思う。

吉垣委員 まず、64 ページにコラムがある L G B T Q について、お母さんたちからどこに相談に行けばいいか聞かれることが多々あり、相談窓口はどこになるのか聞きたい。また、65 ページ「認知症にやさしいまちづくりの推進」について、民児協定例会でも講演をお願いしたい。新しい委員もいるので、チラシを配るだけではなく、一歩踏み込んで講演会を実施してほしい。

事務局 L G B T Q の相談窓口について、区役所の中に決まった部署はなく、児童の心と体の悩みについては児童相談所、または教育委員会の教育相談センターという形になっています。ただ、どこの窓口でも地域みまもり支援センターにご相談いただければ、話を伺いながら、専門の窓口や機関に繋げるよう対応していきます。また、認知症に関する講演に係るお申し出はありがたい。認知症サポーター養成講座は様々な場面で行っており、今後は小・中学校でも少しずつ実施するべく調整しているところ。民児協定例会で実施についても、よろしくをお願いしたい。

吉垣委員 学校は 2・3 月に 1 年間の予定を決めるので、早めに依頼する方がいい。年明けにはお願いしたほうがいいと思う。

事務局 今年は、了解いただけた小学校において、子どもたちが絵本を見ながら理解できるように図書室に認知症のコーナーを設けている。学校は早く予定を立てるので、こちらも早めに動きたいと思います。

小山委員 取組のコラムを載せているのが読みやすく、取組の実際がわかるのでいいと思った。地域包括支援センターも何箇所かで出てきているが、「健康づくり・介護予防グループの活動支援」について、担い手も不足しており、重要になってくると普段から感じている。具体策までは計画冊子に載せられないと思うが、様々な取組をしながら担い手を増やしていくことに一緒に取り組んでいきたい。今回、委員になって初めてじっくり冊子を読んだ。こうした冊子がいろんな方の手に届く、いろんな人が目にできることが大事だと思っており、多くの方に手に取っていただきたいと思っている。

河村委員 33 ページ「地域福祉マップ」で障害関係は四角で表されているが、今回は 5 つの四角で表示されるので冊子となったときに判別できるかが気になった。他に指摘するところはないが、障害者相談支援センターで業務をする立場として、様々な取組について行政とともに行う立場なので、第 7 期も行政とともに取り組んでいきたいと思っている。

事務局 四角の違いが判別できるように気を付けます。

佐野委員 64 ページのコラムで、多様性への理解や支援を促す取組について書いていただき嬉しく思っている。ただ、吉垣委員から L G B T Q に関する相談場所はどこかと質問が出ていたが、基本方針 2「相談支援に対する専門性の向上と関係機関との連携強

化」の中で、子ども、高齢者、障害者に関する相談支援と記載があるように、どういうカテゴライズになるかわからないが、ゆくゆくは「多様性への理解に関する相談支援」といった記載があれば相談する人がわかりやすいように思う。

また、麻生区が長寿日本一になったということで、78・79 ページに「麻生区は健康寿命の取組を進めている」という記載があるが、健康寿命だけではなく、地域社会に貢献する貢献寿命に取り組むことについても記載してはどうか。人材発掘について、若い人だけではなく、元気な高齢者における貢献寿命の取組ということも一言書いておくと、「自分もまだ地域で何かできる」というきっかけになると思う。

その他は、前回に比べて細かく見やすくなったと思っている。

依田委員

全体としてシンプルで、読んでわかりやすくなった。

ただ、9 ページからの「統計データから見る麻生区の現況」について、どこかに災害や防犯のデータも必要ではないか。福祉の目線で読んでみると、最後に防犯防災のまちづくりが出てくるので違和感があった。

次に、19 ページ「地域ケア圏域」について、難しい課題かと思うが、地域ケア圏域を意識するためには、地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」とする。）なり町内会なり防災の避難所なり、各々の小地域のエリアが入り組んでいるので、活動を工夫していく必要があるかと思う。それぞれのマップはあるが、重なったマップは無いので、何とかそれを作ってもらえないか。地域で作ろうとしている方たちもいるが苦勞している。市の持っているデータベースなどをうまく活用して、地域住民にデータが手に入るようにしていただけるといいと思う。この計画の中にあるというのもいいし、あるいは二次元コードなどでマップが見られるようにするとか、そうした工夫をしてもらいたい。

次に、35 ページ「地域福祉実態調査の主な結果」においてQ 2の「特に問題だと感じていることはない」というのは、目立つ選択肢だと思う。年代別のクロス集計をすると見えてくることがあるのではないかと思うので、できるのであればコメントをつけてもらいたい。

次に、44 ページ「基本目標に対する振り返り」の基本目標 2 のところで、読み手にとってわかりやすさを追求する 3 年間であってほしいので、「読み手にわかりやすい発信に取り組む」などを入れてもらいたい。また、基本目標 3 の 3 つ目に「町会・自治会や民生委員児童委員、地域包括支援センター等の地域活動団体」となっているが、ここに区社協、地区社協などが入らないものかと思う。

次に、46 ページ「計画体系」の基本理念について、「麻生区らしい地域包括ケアシステム構築をめざして」となっているが、令和 7 年度までがシステム構築期であり、この表現ではゴールがまだ先に読めるので、工夫が必要ではないか。

次に、48 ページの基本目標 2 の説明文について、「わかりやすい」とか「選択しやすい」情報提供の工夫といった表現があるといいかと思う。また、49 ページの基本目標 3 について、『「ひと・もの・場」をつなぐ自助・互助の仕組みづくり』が目標であるが、この計画では、その全体像がどういう絵になるのかを示してほしい。

次に、50 ページの重点項目 1 について、「地域活動の参加につながる取組の推進」

となっているが、活動指標において、ボランティアが限定されていて違和感がある。ボランティアについては、やまゆりも区社協も様々な取組をやっていると思われるので、現在の書き方では限定的な印象を受ける。

次に、52 ページの重点項目 3 について、認知症サポーター養成講座の目標値を子どもと大人で分けたらどうか。また、説明文について、認知症のケアは毎年変わっているのもう少し踏み込んだ書き方をしてもらいたい。現状の書きぶりでは古いタイプの認知症ケアに読めるので、「当事者の声を生かす」とか「地域の中で当たり前前に暮らせる」などの表現を盛り込むといいのではないかと。

次に、53 ページの重点項目 4 の中で、麻生区高齢者見守りネットワーク事業について、いろいろな見守りネットワークが 2 重 3 重にある感じで、整理して拡大する方向がなくていいのかと思った。

次に、56 ページ以降の「具体的な取組」については、関連する団体等と行政の窓口が書かれて、わかりやすいと感心した。

次に、58 ページの取組 7 「市民提案型協働事業による地域活動団体との協働」について、単独な感じがする。様々な形での連携の対象になっていると思うので、この形でいいのかなと感じる。

次に、60 ページの「健康づくり・介護予防事業の推進」について、介護予防は地域包括支援センターの事業の大きな柱の一つなので、記載が無いと少し違和感がある。地域包括支援センターとの連携について記載が必要であると思う。

また、住まいの環境整備について記載が見えないが、書くとすれば 63 ページの取組 19 あたりになるかと思う。

次に、65 ページ取組 22 「認知症に関する普及啓発」について、チームオレンジの取組に触れなくていいか気になる。また、取組 24 「あさお SOS ネットワーク事業」は発見保護に努めるための事前登録までの仕組みであるが、街中で保護するための仕組み、例えば見守りのメールを入れ合うとか、まちで訓練をするなど、目標を掲げて仕組みを進化させるときではないかと思う。

次に、68 ページ取組 28 「あさお福祉まつり」の説明文について、「区民の福祉活動への理解と関心を高めるとともに」と書いてあるが、地域デビューの場になるよう積極的な展開が必要だと思うので、ぜひそうしていただきたい。

次に、74 ページ取組 42 「町会・自治会への活動支援」について、町会と地域福祉が連携していく場が少ないのかと感じたので、関連する団体のところに区社協や地域包括支援センターなどを絡められないものか。

次に、75 ページ取組 47 「麻生区社会福祉協議会との連携」について、(基本方針 6 の) 各団体と、区社協が並列という位置づけは違和感がある。パートナーを組む団体として、位置付けのあり方を少し変えて、書き加えをする必要があると感じる。最後に、先ほど地域ケア圏域が入り組んでいるという話をしたが、マップづくりについて、努力すべきテーマではないかと思っている。

事務局

住まいに関しては、市計画において、基本目標 2 「安心して暮らせる住まいと住まい方の実現」の「(2) 誰もが暮らしやすい居住環境の整備」に記載される形になっ

ています。

依田委員 承知した。

岡倉委員 福祉の分野と防災の分野では、共助の意味が違うことに驚いた。区の福祉計画では、自助・互助の部分を整理されていると理解している。自助・互助・共助・公助の位置付けの中で、自助のところに、市場サービスの利用という観点もあるので、それをはっきり入れて、自分が何かやらなくてはいけないというのではなく、お金を払ってやってもらえるサービスもあるということも書かれたらどうか。

また、今回の案には書かれていないが、実態調査において、市や区の福祉計画を知らない人が 88.1%という記載があった。あさお福祉計画が 2004 年にできて 20 年近く経つのに、知らない人が 9 割近くいるので、何とかしてほしいと思う。

次に、地域活動に関わる人材の育成について、人材を発掘・育成して、地域活動につなげていくという話だが、今一番よくできているのは「子育て人材バンク」だと思う。それぞれの分野で研修を受けた人、ボランティアをやりたい人、そういう人のプラットフォームを区社協と作ってもらえれば、依田委員も言ったようなことを少し解決できるのではないかと思っている。以前、市民館でコーディネート機能の強化ということで検討していたが、もう少し発展させてプラットフォームにしたらどうか。

次に、「公園の愛護活動支援」という取組が追加されたが、チャレンジパーク早野ができたことに感心している。公園を中心にして、様々な交流や地域団体の人がそこを活動の場としてやっていくということだ。今後、公園を管理運営するという中に、そういう視点を入れていくような仕組みをぜひ考えてもらいたい。

次に、老人クラブの取組を項目に入れてもらいたい。高齢者が増えているのに参加者は減っているが、寝たきりの人やひとり暮らし高齢者を訪問する「友愛チーム活動」はいい取組だと思っている。市の事業だが、区も支援策を講じていただけたらいいと個人的に考えている。

次に、地域ケア圏域の話だが、稲城市や町田市、横浜市では生活支援コーディネーターが中心になって地域を動かすということをやっているように思う。そういう仕組みは非常にいいと思う。そういう方と、区としてどのように連携を持っていくか、という視点も地域福祉計画の中にあってもいいのかなと思っている。また、地域福祉マップにこれだけの施設がある中で、この人たちとどう連携していくかという視点もあるといいだろう。

自分自身の経験として、近隣にひとり暮らしの高齢者がいて、近所で見守りをしていたが、けがをしてしまい、施設に入った。そういう場合にどこに相談すればいいのか、相談したところで最後まで一緒に面倒をみってくれるような仕組みを作ってほしいと思っている。ペットもいるし、地域包括支援センターにも相談したが、結局今は空き家になっているので、地域の人と親戚の人で草刈りをしたりしている。ここに相談すれば最後まで面倒をみってくれると言う仕組みがわかるといいと思った。

事務局 地域計画を知らない人が多いことについては、一人でも多くの方に知っていただきたいので、いろいろな団体に出向いた説明なども行っていきたいと考えている。

- 岡倉委員 一つ言い忘れたが、市のホームページにあるチャットボットに、「配食サービス」について教えてほしいという話をした。そうすると、障害者のホームヘルプサービスの情報かと聞かれて、うまく回答してくれなかった。そのあと、生成AIで聞いてみたら、「川崎市生活支援サービス情報によると、麻生区にはまごころ弁当と生協の配食サービスがある」とあり、「安心して美味しい食事が楽しめる、ご自身のニーズに合ったサービスを見つけ出してください」と回答してくれた。地域福祉はたくさんサービスがあり全部知るのは大変で、こういうものを活用するといいだろう。
- 高橋(慶)委員 認知症にやさしいまちづくりの推進という話があったが、中学生にもぜひ広めてもらえたらと思う。そのときに、地域の町会にも連絡をいただければありがたい。それから、町会・自治会は民生委員児童委員の推薦母体であるということを知っていただきたく、3年に1回、次の方を選んで支えているという思いがある。
- 依田委員 民生委員さんが町会で頑張っていらっしゃることは伺っている。町会の日々の活動の中で、もっと福祉と連携ができるような機会がたくさんあると、町会長さんたちも様々なことが学べて、色んな意味での理解者になっていただけるのではないかと感じている。
- 村井委員 まず、35ページからの「地域福祉実態調査の主な結果」については、区民のニーズといえるので、Qがある以上、Aがどう計画に盛り込まれたのか、関係性の記載があったほうがいいかなと思った。客観的な区民ニーズから、それをどう計画に盛り込まれたのか。網羅しているとは思いますが、QがあつてAがないように見えてしまう。次に、圏域を設定しているのは画期的ではあるが、文化的・歴史的背景が十分調整されていないので、区民にとっては、降って湧いた突然のエリア設定になる。どのように区民の生活に浸透させ、圏域の中で課題を発見・解決していけるか、そもそもなぜ圏域を設定したのか、これから圏域はどういうものになっていくのかなど、狙いのようなものが言葉になっているといいと思う。
- また、56ページからの「具体的な取組」については、関連する団体が書かれているが、相手は知らなかったということにならないように気を付けたい。こちらが希望していても、あちらは何も思っていなかったということがないようにしなければいけない。本当は、計画策定のプロセスの中で、この方たちと話し合いの場が設けられていて、基本目標や基本方針について一緒にやっという意思決定がなされると完璧になるので、今回は3年後までに話し合っ、具体性のある更なる役割分担を整理していくことが大事かと思う。例えば「地域活動に関わる人材の発掘と育成」について、関連する団体と話し合った結果、区社協、やまゆり、あさお希望のシナリオ実行委員会が、全体の人材育成の中でどんな役割を担うかなどが明らかになっていくといいと思っている。
- 本当は、計画策定のときにそれを行うと、プロセスゴールになる。地域福祉計画は二つのゴールがあり、一つは策定過程において、多くの方々を巻き込んで、その方々と共通認識や共感を得、やるべきことをお互いが覚知すること。計画をつくるときに一緒にやるからこそ、仲間づくりや連携体制がつけられ、それで半分ぐらい完成となる。策定された計画を推進する中で、どのように結果を出せたかという

のは、計画のゴール。過程が一つのゴールで、計画を推進することによって、もう一つのゴールという二つがあるので、今後もそれを大事にしていきたい。

また、指標がついに出てきた。これは諸刃の剣で、数字が暴走することがよくある。例えば 50 ページを見ると、現状と目標は 76 人が 85 人になる。3 年経てみたら実績が 84 人だったからといって「計画達成せず」ということではないということ、我々委員の中だけでも共通認識としておきたい。目標に対してチャレンジし、数字を達成したら素晴らしいことではあるが、数値が減っていたとしても、何か理由があって、中身の質が増すこともある。例えば、ボランティア活動団体は減ったけれど、ボランティアそのもののクオリティは上がった、ということはよくある話である。

数字はどうしても難しい問題をはらむ。例えば、保健福祉情報の発信が目標を達成したからといって、発信する 1 件の内容が薄くなったとしたら、どっちがいいかという話になる。そういうところに気を付けながら、数ありきというだけではなくて、何とか思い切って指標を出したというところ。そのため、目標値を達成できなかったとしても、どうしたら近づけたかを考えて、次の計画に具体的な改善策を盛り込んでいくための客観的な指標として、いい材料になると期待している。せっかくだいろいろな努力と新しいことが今回盛り込まれているので、生きた内容にしていけるよう、一緒に取り組んでいきたいと思う。

事務局 今回初めて指標を設定したが、内部で調整検討して、高いところに目標を置いている。目標達成を目指していくところではあるが、指標の取り扱いについて、優しい言葉をいただきありがたい。

(1) ② 今後の地域福祉計画策定スケジュールについて

資料 2 を基に、事務局から説明

岡倉委員 10 月 20 日の社会福祉審議会地域福祉専門分科会は公開であるか。

事務局 公開と思われるが、確認して個別に連絡差し上げる。

(2) その他

・公募委員の募集、会議スケジュールについて事務局から説明

3 閉会

14 時 40 分閉会